



# 人権教育学習指導案集

～令和2年度の実践～

埼玉県教育局市町村支援部人権教育課



# 刊行にあたって

「人権教育学習指導案集～令和2年度の実践～」は、令和2年度に文部科学省・埼玉県教育委員会の委託を受けた人権教育総合推進地域及び人権教育研究指定校と、県内で優れた実践をされている学校の人権教育学習指導案をもとに当課が編集したものです。

この学習指導案集は、学習指導案提供校において研究主題や人権教育上の課題を解決するために、各地域や学校の実態を踏まえ具体的な授業実践に取り組みられた成果です。人権に関する知的理解を深めるとともに、児童生徒一人一人に実践的な態度や行動に結びつく人権感覚を身に付けさせるために、人権教育の指導方法を工夫・改善した実践を掲載しております。

当課が作成した「人権感覚育成プログラム（学校教育編）」（平成20年3月）、「人権感覚育成プログラム（社会教育編）」（平成21年3月）、「人権教育資料～指導実践の手引～」（平成22年3月）、「人権感覚育成プログラム増補版（学校教育編）」（平成25年3月）、「人権感覚育成プログラム（学校教育編）第2集」（平成31年3月）につきましては、各学校の御理解と御協力により、多くの学校で活用していただいております。各学校におかれましては、各教科等で人権教育の視点に基づいた授業を実践する際に本書と併せて活用し、学校の実態に応じて人権教育を積極的に推進していただきますことを期待しております。

結びに、本書の刊行にあたり、学習指導案を御提供いただきました各学校及び関係各位に対しまして、厚くお礼を申し上げます。

令和3年3月

埼玉県教育局市町村支援部人権教育課長  
阿部 仁

## 人権教育学習指導案の提供校

〈小学校〉	滑川町立宮前小学校 滑川町立月の輪小学校 滑川町立福田小学校 新座市立池田小学校
〈中学校〉	滑川町立滑川中学校 入間市立金子中学校
〈高等学校〉	県立新座総合技術高等学校

※提供された学習指導案の中から当課が編集し掲載しています。

# 目 次

○ 「人権教育上のねらい・視点・配慮」の指導案への記入について	1
○ 学習指導案の記述例と留意点	2
1 小学校第4学年 理科学習指導案 単元名 「ものの温度と体積」	4
2 小学校第5学年 音楽科学習指導案 題材名 「詩と音楽のかかわりを味わおう」	8
3 小学校特別支援学級 自立活動学習指導案 主題名 「当たり前ってどういうこと？ ～仕事を性別から考える～」	14
4 中学校第1学年 国語科学習指導案 単元名・教材名 新しい視点へ「ちょっと立ち止まって」	18
5 中学校第3学年 英語科学習指導案 単元名 「Program 5 Sushi-Go-Around in the World」	22
6 高等学校工業科（デザイン） 学習指導案 単元名 「ユニバーサルデザイン」	26

## 「人権教育上のねらい・視点・配慮」の学習指導案への記入について

学習指導案は「人権教育上のねらい・視点・配慮」の内容項目を設け、次のとおり作成しています。

<p>人権教育上のねらい</p>	<p>学校教育目標や人権教育目標を達成するために、各教科等において<u>人権教育を推進していく上で、人権課題別に各単元や一単位時間の中で目指すこと。</u>          ( ) 内に人権課題を明示する。          &lt;例&gt; (普遍的な人権課題「生命尊重」)          (個別の人権課題「障害のある人」)</p>
<p>人権教育上の視点</p>	<p>「人権教育上のねらい」の達成を目指し「法の下での平等」、「個人の尊重」といった人権一般の普遍的な課題に対する取組や具体的な個別の人権課題に対する取組の中で、<u>児童生徒に身に付けさせたい知識、価値・態度、技能のこと。</u>  <b>【知識】</b> &lt;例&gt;  <input type="radio"/> 各人権課題に関する正しい知識  <input type="radio"/> 情報を的確に収集し、合理的に理解し、活用する力  <input type="radio"/> 豊かな感性や想像力、共感的に理解する力  <b>【価値・態度】</b> &lt;例&gt;  <input type="radio"/> 人間としての尊厳や自尊感情を大切にする態度  <input type="radio"/> 異なる文化を受容したり、違いを認めたりする態度  <input type="radio"/> 正義と公正を尊ぶ態度  <input type="radio"/> 課題解決に向けた意欲・実践的な態度  <b>【技能】</b> &lt;例&gt;  <input type="radio"/> 非攻撃的自己主張の技能  <input type="radio"/> コミュニケーションの技能  <input type="radio"/> 人間関係を調整する技能  <input type="radio"/> 解決に向けた実践力やそのための技能</p>
<p>人権教育上の配慮</p>	<p>「人権教育上の視点」に示した知識、価値・態度、技能を身に付けさせるための<u>教師による具体的な手立て(指示、説明、資料提示など)のこと。</u>具体的な手立てを「◎」で明示し、記入する。          ※「<u>わかりやすくゆっくり話す</u>」や「<u>友達の話をよく聞く</u>」等の学習一般の配慮事項を記入するものではない。</p>

## 学習指導案の記述例と留意点（「道徳科学習指導案の例」）

道徳科学習指導案			
1	主題名	.....	
2	ねらい	.....	
	教材名	.....	
3	主題設定の理由	(1) ねらいや指導内容について (2) これまでの学習状況及び児童生徒の実態について (3) 教材の特質や活用方法について	
4	人権教育上のねらい（個別の人権課題「子供」）	将来、人権を保障する共生社会の担い手となるよう、自 他を尊重する精神を養う。	
5	人権教育上の視点	(1) 「児童の権利に関する条約」に保障された子供の権利に ついて知識をもつとともに、いじめなど身の周りの問題の 不当性を理解する。（知識） (2) 互いに伝え合い、わかり合うためのコミュニケーション の能力を高めることができる。（技能）	
6	学習指導過程	◎人権教育上の配慮	
	段階	学習活動 主な発問	予想される児童生徒の反応
			・ 指導上の留意点 ☆評価の視点
	1	...	.....
	2	...	.....
			◎身の回りの問題に関す る現状を認識させるた め、「条約」と「いじめ 発生件数」の資料を提示 する。（知識）
	3	...	.....
	4	...	.....
			◎相互尊重のコミュニケ ーションスタイルを学 ばせるため、アサーティ ブトレーニングを取り 入れる。（技能）
	5	...	.....
7	他の教育活動との関連		
8	評価の視点		

← ポイント 1

1 }  
2 } ← ポイント 1  
3 }  
6 }  
7 }  
8 }

← ポイント 2

← ポイント 3

← ポイント 2

← ポイント 4

← ポイント 2

← ポイント 5

← ポイント 5

← ポイント 5

人権教育上のねらい }  
人権教育上の視点 } ← ポイント 6  
人権教育上の配慮 }

・ポイント１・・・学習指導案は、各教科等の様式を原則とし、学習指導要領を基に記述する。  
学習指導案様式は、埼玉県教育委員会の刊行物を参照。

・ポイント２・・・学習指導案に「人権教育上のねらい・視点・配慮」の項目を設けて記述する。

- |   |
|---|
| 4 人権教育上のねらい（〇〇の人権課題「□□□□」）……（ ）内に人権課題を明記する。<br>5 人権教育上の視点<br>◎ 人権教育上の配慮 |
|---|

・ポイント３・・・本単元（本時）で解決を目指す人権課題を「人権教育上のねらい」に明示する。

（個別の人権課題「子供」） 将来、人権を保障する共生社会の担い手となれるよう、自他を尊重する精神を養う。
---

※記述する際は、「～を養う」や「～ができるようになる」などといった表記となる。

（普遍的な人権課題の内容例）

世界人権宣言や日本国憲法に示されているようなもの（「法の下での平等」「個人の尊重」など）や、「人権感覚育成のための視点」で示している9つの視点など。

（個別の人権課題の内容例）

埼玉県人権教育実施方針に示されているもの（「女性」「子供」「高齢者」「障害のある人」「同和問題」「外国人」「H I V感染者等」「犯罪被害者やその家族」「アイヌの人々」「インターネットによる人権侵害」「北朝鮮当局による拉致問題」「災害時における人権への配慮」「様々な人権問題（刑を終えて出所した人、性同一性障害をはじめとした性的マイノリティ、ホームレスの人権、プライバシーの侵害、その他）」）

・ポイント４・・・「人権教育上のねらい」に明示した人権課題を解決するために必要な「知識」、  
「価値・態度」、「技能」を「人権教育上の視点」として記述する。

- |  |
|--|
| (1) 「児童の権利に関する条約」に保障された子供の権利について知識をもつとともに、いじめなど身の周りにおける人権問題の不当性を理解する。（知識）<br>(2) 互いに伝え合い、わかり合うためのコミュニケーションの能力を高める。（技能） |
|--|

※記述する際は、「～を理解する」や「～しようとする」、「～できる」などといった表記となる。

・ポイント５・・・「人権教育上の視点」に示した知識、価値・態度、技能を本時の展開の中で身に付けさせるための具体的な手立てを「人権教育上の配慮」として記述する。

- |  |
|--|
| ◎ 身の回りの問題に関する現状を認識させるため、「条約」と「いじめ発生件数」の資料を提示する。（知識）<br>◎ 相互尊重のコミュニケーションスタイルを学ばせるため、アサーティブトレーニングを取り入れる。（技能） |
|--|

※記述する際は、「～を提示する」や「～を促す」などといった表記となる。

・ポイント６・・・「人権教育上のねらい・視点・配慮」の整合がとれていること。  
本時で扱う人権課題の解決に必要な知識、価値・態度、技能が身に付くような具体的な手立てがなされていることがはっきりと示されていることを確認する。

## 小学校第4学年 理科学習指導案

### 1 単元名 「ものの温度と体積」

### 2 単元について

本単元は、小学校学習指導要領理科編第4学年 「A—(2) 金属、水、空気と温度を受けて」設定したものである。

本内容は、「粒子」についての基本的な概念等を柱とした内容のうちの「粒子のもつエネルギー」に関わるものであり、中学校第1分野「(2) ア (ウ) 状態変化」の学習につながるものである。

ここでは、児童が、体積や状態の変化、熱の伝わり方に着目して、それらと温度の変化とを関係付けて、金属、水及び空気の性質を調べる活動を通して、それらについての理解を図り、観察、実験などに関する技能を身に付けるとともに、主に既習の内容や生活経験を基に、根拠のある予想や仮説を発想する力や主体的に問題を解決しようとする態度を育成することをねらいとしている。

児童は、既習単元の「とじこめた空気と水」で空気と水の体積変化にふれ、空気は押し縮められるが水は押し縮められないものとして捉えている。また、日常生活では、エアコン等で温度変化している空気や様々な温度の水、フライパン等の温まった金属が身近に存在している。しかし、それら空気・水・金属の体積の変化をはっきりと意識できている児童はいない。

そのため、指導に当たっては、導入において「とじこめた空気と水」の学習を振り返ったり、日常生活の中で空気・水・金属が温度変化している経験を想起させたりして、学習意欲の喚起を図りたい。また、ペットボトルに閉じ込めた空気や水を実際に触るなど既習の内容や生活経験を基に、温めたり冷やしたりするとどうなるか根拠のある予想を立て、話し合い活動を通して、自分の考えを深め、知識・技能の習得につなげていきたい。さらに、まとめにおいては、「体積」「大きくなる」「小さくなる」「変わらない」といった用語をおさえ、児童の学習内容を整理しやすいようにしていくことで思考を深めさせたい。

### 3 単元の目標

金属、水及び空気の性質について、体積の状態の変化、熱の伝わり方に着目して、それらと温度の変化とを関係付けて調べる活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 次のことを理解するとともに、観察、実験などに関する技能を身に付けること。

(ア) 金属、水及び空気は、温めたり冷やしたりすると、それらの体積が変わるが、その程度には違いがあること。

(イ) 金属は熱せられた部分から順に温まるが、水や空気は熱せられた部分が移動して全体が温まること。

(ウ) 水は、温度によって水蒸気や氷に変わる。また、水が氷になると体積が増えること。

イ 金属、水及び空気の性質について追究する中で、既習の内容や生活経験を基に、金属、水及び空気の温度を変化させたときの体積や状態の変化、熱の伝わり方について、根拠のある予想や仮説を発想し、表現すること。



#### 4 評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①金属、水及び空気は、温めたり冷やしたりすると、それらの体積が変わるが、その程度には違いがあることを理解している。 ②金属は熱せられた部分から順に温まるが、水や空気は熱せられた部分が移動して全体が温まることを理解している。 ③水は、温度によって水蒸気や氷に変わること、また、水が氷になると体積が増えることを理解している。 ④観察、実験などに関する技能を身に付けている。	①金属、水、及び空気の性質について追究する中で、既習の内容や生活経験を基に、金属、水及び空気の温度を変化させたときの体積や状態の変化、熱の伝わり方について、根拠のある予想や仮説を発想し、表現している。	①空気、水及び金属の性質についての事物・現象に進んで関わり、他者と関わりながら問題解決しようとしているとともに、学んだことを学習や生活に生かそうとしている。

#### 5 人権教育上のねらい（普遍的な人権課題「コミュニケーション能力」）

友達との学び合いや対話を大切にし、物事を進めようとするができるようになる。

#### 6 人権教育上の視点

互いの考えを分かり合うために、相手の伝えたいことを考えてコミュニケーションを深める態度を身に付けている。（価値・態度）

#### 7 指導と評価の計画（8時間扱い）

次	時	学習活動	評価の観点・方法
第一次	1 ・ 2 ・ 3	○理科室の安全について ○空気を閉じ込めた容器をあたためたり冷やしたりしてみる。（見付けよう） ○閉じ込めた空気をあたためたり冷やしたりして、体積が変わるかどうか調べる。（実験1）	<b>【思考・判断・表現①】</b> 発言・ノート <b>【知識・技能④】</b> 行動観察・ノート <b>【知識・技能①】</b> 発言・ノート <b>【主体的に学習に取り組む態度①】</b> 行動観察・発言・ノート
第二次	4 （ 本 時 ） ・ 5	○水をあたためたり冷やしたりして、体積が変わるかどうかを調べる。（実験2）	<b>【知識・技能④】</b> 行動観察・ノート <b>【知識・技能①】</b> 発言・ノート <b>【思考・判断・表現①】</b> 発言・ノート <b>【主体的に学習に取り組む態度①】</b> 行動観察・発言・ノート

第 三 次	6	○金属の棒を湯に入れてあたたため、体積が変わるかどうかを調べる（見付けよう）	【思考・判断・表現①】 発言・ノート 【知識・技能④】 行動観察・ノート
	7		【知識・技能①】 発言・ノート
	8	○金属の棒を炎で熱して、体積が変わるかどうかを調べる。（実験3）	【主体的に学習に取り組む態度①】 行動観察・発言・ノート

## 8 本時の学習（4／8時間目）

### （1）目標

水の温度による体積の変化について見いだした問題に対して、根拠のある予想を考え、表現することができる。【思考・判断・表現】

### （2）展開

◎人権教育上の配慮

No	学習活動	○指導上の留意点 ◇評価規準【観点】＜評価方法＞→支援	時間
1	<p>問題を確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>空気は、あたためると体積が大きくなった。</li> <li>空気は、冷やすと体積が小さくなった。</li> </ul>	<p>○身の周りにおける空気や水、金属が温度によって体積が変わっているのか調べるという学習の目的を確認する。</p> <p>○動画を使って前時までに実験・考察した資料を提示して既習の学習を想起させ、予想の根拠にできるように示す。</p>	4
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px auto; width: fit-content;">           水は、空気と同じように、あたためたり冷やしたりすると、体積が変化するのだろうか。         </div>			
2	<p>めあてを確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>今日のめあては予想しようだ。</li> <li>空気の体積が変化したことをもとに水の場合を予想しようかな。</li> <li>「とじこめた空気と水」をもとに予想できそう。</li> </ul>	<p>○児童の言葉で本時のめあてがつけられるようにする。</p>	3
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px auto; width: fit-content;">           学習したことや身の回りをもとに、水の体積が温度によって変化するか予想しよう。         </div>			
3	<p>問題に対して予想をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>空気と同じように水もあたためると体積が大きくなる。</li> <li>「とじこめた空気と水」では、水は力を加えても押し縮められなかったので体積は温度によって変わらない。</li> <li>お風呂に入っている水は増えていないので変わらない。</li> </ul>	<p>○空気や水の入ったペットボトル、「とじこめた空気と水」、身の周りの物から自分なりの考えを持たせる。</p> <p>○「予想は～。わけは～。」の文型、「空気」「水」「体積」「大きくなる」「小さくなる」などポイントとなる言葉を提示しておき、児童自身の言葉で予想を書かせるようにする。</p>	10

<ul style="list-style-type: none"> <li>・水は、押し縮められないから冷やしても体積は小さくならないけど、温めると体積は大きくなる。</li> </ul>	<p>◇水の温度による体積の変化について見いだした問題に対して、根拠のある予想を考え、表現する。【思考・判断・表現】</p> <p>&lt;発言・ノート&gt;</p> <p>→手がとまる児童には、根拠となりえる事実を例示する。</p>	
<p>4 班で交流する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・空気と同じように体積は、変わる。</li> <li>・閉じ込めた水は、押し縮められなかったから変わらない。</li> </ul>	<p>○自分の考えと異なる考えにも耳を傾けさせ、認めるようにさせる。</p> <p>◎コミュニケーションを通じた学びの深まりを感じさせるために、対話を通して、どのように考えが変容したのかを黒板で確認する。(価値・態度)</p> <p>○あくまで予想ということから実験をして調べる必要性を感じさせる。</p>	10
<p>5 全体で交流する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・体積は、温度によって変化しないかも知れない。</li> <li>・体積は、温度によって変化するかも知れない。</li> </ul>		15
<p>6 振り返りをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の考えを友達に伝えることができた。</li> <li>・友達の考えが自分と違ったけど、実際にそうかも知れないと思った。</li> <li>・実験をして本当に体積が変化するか確かめたい。</li> </ul>	<p>○終末として、どんな実験をすればみんなが出した予想を確かめることができるかを確認し、次時で詳しく学習することを確認して終わる。</p> <p>○本時の課題に沿って振り返りをする。</p> <p>◎友達との学び合いや対話を大切にしていた児童を称賛する。(価値・態度)</p>	3

## 小学校第5学年 音楽科学習指導案

1 題材名 「詩と音楽のかかわりを味わおう」

2 題材について

(1) 児童の実態

本学級の児童は、前題材の「曲想の変化を感じ取ろう」では、思考・判断のよりどころとなる主な音楽を形作っている要素をリズム、旋律、強弱と設定し、曲想の違いについてグループで話し合い自分たちの考える器楽表現を発表した。音楽の要素をもとに、お互いの表現の工夫についてもよく気付くことができ、よい演奏について自分なりの意見をもつことができた。既習の「日本のうた」には興味をもって取り組むことができている。児童にとって難解な歌詞の意味も、児童の生活体験や発達の段階に応じて理解できるように工夫していきたい。

(2) 題材について

本題材では、大正時代に山田耕筰によって作曲された作品「待ちぼうけ」を中心に鑑賞と歌詞の音読、歌詞唱に取り組む。それらの活動をとおし、「日本のうた」がもつ日本語の美しい歌詞、その日本語に合わせてつくられた旋律との結び付きについて考え、作詞者、作曲者、演奏者の視点に立って考えたり、友だちと意見交流をしたりして、曲の特徴や、演奏のよさを理解することにつなげていき、豊かな表現で歌唱により表現できるようにしていく。

(3) 学習指導要領との関連について

本題材では、様々な「日本のうた」の主にリズム、速度、強弱に着目し、小学校学習指導要領のA表現(1)歌唱ア、イ、ウ(ア)(イ)(ウ)、B鑑賞ア、イを指導するものとする。

3 題材の目標

- (1) 曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて理解するとともに、思いや意図に合った音楽表現をするために必要な歌唱の技能を身に付ける。
- (2) リズム、速度、強弱などを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、どのように表すかについて思いや意図をもつ。
- (3) 詩と音楽の関わりを捉えて表現する学習に興味をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱の学習に取り組み、日本のうたに親しむ。

4 教材について

「待ちぼうけ」	北原白秋	作詞	山田耕筰	作曲	
「赤とんぼ」	三木露風	作詞	山田耕筰	作曲	橋本祥路 編曲
「この道」	北原白秋	作詞	梁田耕作	作曲	長谷部国俊 編曲
「冬げしき」	文部省唱歌				
「スキーの歌」	文部省唱歌				

5 学習指導要領の指導事項と〔共通事項〕との関連及び具体的な学習活動

指導事項	<p>歌唱ア 歌唱表現についての知識や技能を得たり生かしたりしながら、曲の特徴にふさわしい表現を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図をもつこと。</p> <p>歌唱イ 曲想と音楽の構造や歌詞の内容と関わりについて理解すること。</p> <p>歌唱ウ (ア) 範唱を聴いたり、ハ長調及びイ短調の楽譜を見たりして歌う技能。</p> <p>歌唱ウ (イ) 呼吸及び発音の仕方に気を付けて、自然で無理のない、響きのある歌い方で歌う技能。</p> <p>歌唱ウ (ウ) 各声部の歌声や全体の響き、伴奏を聴いて、声を合わせて歌う技能。</p> <p>鑑賞ア 鑑賞についての知識を得たり生かしたりしながら、曲や演奏のよさなどを見だし、曲全体を味わって聴くこと。</p> <p>鑑賞イ 曲想及びその変化と、音楽の構造との関わりについて理解すること。</p>
〔共通事項〕	ア リズム、速度、強弱
	イ 強弱記号、ブレス、速度記号
具体的な学習活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・歌詞の内容から歌唱表現を工夫する。</li> <li>・曲の構造と歌詞の内容との関わりによって曲想が変化することを理解する。</li> </ul>

6 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>① <b>知</b>曲想及びその変化と、音楽の構造との関わりについて理解している。(鑑賞)</p> <p>② <b>知技</b>曲想と歌詞の内容や旋律の動き、フレーズ、強弱の変化などとの関わりを理解し、呼吸や発音の仕方に気を付けながら、響きのある歌い方で歌う技能を身に付けて歌っている。(歌唱)</p>	<p><b>思</b>①言葉と旋律が一体となって生み出す曲想や、その曲想と声の種類や演奏形態による音色や響きの違いなどを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲や演奏のよさなどを見だしながら聴いている。(鑑賞)</p> <p><b>思</b>②リズム、速度、強弱を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲の特徴にふさわしい表現を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図をもっている。(歌唱)</p>	<p><b>態</b>①詩と音楽の関わりを捉えて表現する学習に興味をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱や鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。(歌唱・鑑賞)</p>

7 指導と評価の計画（全6時間扱い）

時	○学習内容 ・主な学習活動	・指導上の留意点 ☆評価規準 【評価方法】
1 本 時	<p>○言葉のリズムや抑揚、語感を感じ取りながら、詩の内容を捉える。</p> <p>・「待ちぼうけ」の歌詞を音読して内容や様子の移り変わりを捉え、作者の工夫を見付けて発表する。</p> <p>・楽譜を見ながら聴いたり歌ったりして、作曲者の工夫を見付ける。</p> <p>○言葉と音楽の結びつきや、曲の特徴に気を付けて聴く。</p> <p>・CDの待ちぼうけを聴き、主な旋律をつかむ。</p> <p>・楽譜を見ながら聴いたり歌ったりして、作曲者の工夫を見付ける。</p>	<p>・発音や言葉の抑揚に気を付けるように促す。</p> <p>・1～5番に共通している言葉、主人公の気持ちが表れている言葉七五調の言葉のリズムなどを探す。</p> <p>・旋律のリズムや音の上がり下がり、繰り返されるフレーズや、休符、音譜の多用など、曲の特徴をつかむ。</p> <p>(☆主体的に学習に取り組む態度① (鑑賞・歌唱)【観察・記述】)</p>
2	<p>○曲想や表現の工夫を味わって聴く。</p> <p>・鑑賞用CDの「待ちぼうけ」を聴き、演奏者が工夫していることに気付く。</p> <p>・感じたことや気付いたことを発表したりワークシートに書いたりする。</p> <p>・曲全体のよさを味わって聴く。</p> <p>○声の種類や演奏形態の違いが生み出す演奏のよさを味わって聴く。</p> <p>・声の種類による響きの違いに気を付けて「赤とんぼ」を聴く。</p> <p>・演奏形態による響きの違いに気を付けて「この道」を聴き、気付いたことを交流する。</p>	<p>・歌詞の内容によって強弱や速度、フレーズの歌い方などの表現が工夫されていることに気付くようにする。</p> <p>・曲想や表現のよさを歌詞・旋律・演奏それぞれの工夫を味わって聴くようにする。</p> <p>☆知識①（鑑賞）①【発言・記述】</p> <p>・教科書を参考に色々な声の種類があることを知る。</p> <p>・声の種類や演奏形態によって味わいが変わることがあることを知る。</p> <p>☆思考・判断・表現（鑑賞）① 【発言・記述】</p>
3	<p>○時間や場面が変わっていく情景を想像しながら「冬げしき」を歌う。</p> <p>・歌詞を音読し、内容、情景や心情、言葉発音、リズム、意味などを捉える。</p> <p>・CDの範唱を聴き、主な旋律を模唱する。</p> <p>・歌詞の表す情景を想像しながら歌う。</p>	<p>・教科書の語句説明や挿絵を参考に、情景を想像しながら音読するように助言する。</p> <p>・歌詞の時間や場所、様子や感じたこと等を発表する。</p> <p>・曲全体の雰囲気をつかんで、滑らかに歌うようにする。</p> <p>・音程に気を付け、自然で無理のない響きのある歌い方で歌うよう助言する。</p> <p>(☆主体的に学習に取り組む態度① (鑑賞・歌唱)【観察・記述】)</p>

4	<p>○歌詞の内容を味わい、旋律の特徴に気を付けて主な旋律を歌う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・旋律の反復や変化に気を付けて「冬げしき」をリズム唱をする。</li> <li>・歌詞の言葉を取り出して発音したり、リズムに合わせて唱えたりする。</li> <li>・旋律の強弱記号が付いていることに気付き、工夫して歌う。</li> <li>・歌詞の内容を踏まえ、3段目のフレーズに最高音があることや、曲全体のまとまりに気を付けて、思いを込めて歌う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3段目でリズムが変化していることに気付くようにする。</li> <li>・呼吸に気を付けるように助言する。</li> <li>・大切にしたい言葉や最高音のあるフレーズに曲の山があることに気付くようにする。</li> <li>・言葉のまとまり、旋律のまとまりを確認して、より一層言葉と旋律の結び付きに気付くようにし、曲想にふさわしい表現となるように助言する。</li> </ul> <p>☆知識・技能（歌唱）②</p> <p>【聴取・観察・記述】</p> <p>（☆主体的に学習に取り組む態度①） （鑑賞・歌唱）【観察・記述】</p>
5	<p>○歌詞を読んだり範唱を聴いたりして、情景を想像しながら「スキーの歌」の主な旋律を歌う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・歌詞を音読し、情景を想像する。</li> <li>・CDの範唱を聴き主な旋律を模唱する。</li> <li>・拍を感じ取りながら、正しい音程やリズムに気を付けて歌う。</li> <li>・歌詞の表す情景を思い浮かべ、生き生きとした気分で歌う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・歌詞の意味を理解し、情景を想像するように促す。</li> <li>・曲全体の雰囲気をつかえて歌うようにする。</li> <li>・タイや息継ぎに気を付けて、躍動感のある旋律を感じ取るようにする。</li> </ul> <p>（☆主体的に学習に取り組む態度①） （鑑賞・歌唱）【観察・記述】</p>
6	<p>○旋律やリズムの特徴、フレーズを生かして、「スキーの歌」の主な旋律の歌い方を工夫する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・旋律やリズムの特徴、反復や変化に気付き曲の構成を感じ取る。</li> <li>・フレーズの特徴や曲の構成を生かして歌うためにどのようにしたらよいかを話し合う。</li> <li>・工夫した曲想を表現するよう、情景を思い浮かべながら、のびのび友だち全体を通して歌う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書の楽譜を見て、リズムの変化、コーダなどに気付くようにする。</li> <li>・リズムカルに歌う場面と、滑らかに歌う場面の対比、強弱、曲の終わり方などについて意見を言う。</li> <li>・思いをもって歌うように促す。</li> </ul> <p>☆思考・判断・表現（歌唱）②</p> <p>【記述・発言・観察】</p> <p>☆主体的に学習に取り組む態度① （鑑賞・歌唱）【観察・記述】</p>

- 8 人権教育上のねらい（普遍的な人権課題「コミュニケーション能力」）  
 友達の気持ちや考えに共感しながら聞き、自分の気持ちや考えを他者が理解できるように適切に伝えることができるようになる。

9 人権教育上の視点

- (1) 友達の意見や感じ方を大切に、共感しながらコミュニケーションを深める態度を身に付けている。(価値・態度)
- (2) 自分の意見や感じ方を友達に分かるように表現し、伝えることができる。(技能)

10 本時の学習指導 (1 / 6時)

(1) 本時の目標

詩の内容を捉え、言葉と音楽の結び付きや、曲の特徴に気を付けて聴き、感じたことを伝え合い、歌唱により表現することができる。

(2) 展開

◎人権教育上の配慮

○学習内容 ・学習活動	○指導上の留意点 ☆評価	時間
1 本時の授業の流れについての説明を聞く。		5分
2 「待ちぼうけ」の歌詞を音読して1～5番までの内容や様子の移り変わりを捉える。 ○言葉のリズムや抑揚、語感、詩の内容。	○発音や言葉の抑揚に気を付けるように促す。 ○教科書の挿絵を見て、様子を思い浮かべるよう助言する。 ○1～5番に共通している言葉、主人公の気持ちが表れている言葉、七五調の言葉のリズムなどを探す。	10分
3 作詞者の工夫を見付けて発表する。	◎児童一人一人が自分の気持ちや考えを発表しやすい雰囲気になるように、肯定的な聞き方ができている児童を称賛する。(技能)	5分
4 本時のめあての確認		10分
詩と音楽の結び付きに気を付けて、日本語の歌曲を味わいましょう。		
5 言葉と音楽の結び付きや、曲の特徴に気を付けて鑑賞CDの「待ちぼうけ」を聴く。 ○主な旋律	○作曲者の工夫は、教科書の「見付けるポイント」を生かして、楽譜を見ていくように助言する。 ○旋律のリズムや音の上がり下がり、繰り返されるフレーズ(旋律のまとまり)、8分休符や2分音符の多様など、曲の特徴をつかむ。	
6 楽譜を見ながら歌い、作曲者の工夫を見付け、発表する。 ○作者の工夫	◎友達同士、歌いながらお互いの声を聴き合い、音程を合わせ、歌い、表現する楽しさを感じ合うように「歌声を合わせることも友達の話を聞くことと同じ」と言葉がけをする。(価値・態度)	10分



7 見付けた工夫を意識して歌う。	☆ 詩と音楽の関わりを捉えて表現する学習に興味をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱や鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。 (☆主体的に学習に取り組む態度① (鑑賞・歌唱) 【観察・記述】)	5分
8 本時のまとめをする。		
9 学習を振り返り、感想を発表する。		
10 次時の予告を聞く。		

ア. 題材指導計画の作成に当たっての工夫 配慮事項等

児童の興味・関心を促す見方・考え方を設定することで、題材をとおして、主体的・協働的に学習活動に取り組めるように工夫する必要がある。本題材では、曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて児童自らが理解できるように、段階を追って気付きを促し、個人活動、ペア活動、グループ活動などを適宜取り入れ、多くの児童が発表できるようにする。また、発表しやすい雰囲気づくりをする。

イ. 学習評価に当たっての工夫、配慮事項等

題材を通したワークシートを用意し、児童も見通しをもって活動ができるようにした。「主体的に学習に取り組む態度」についての評価は、観察・発言・記述などから行い、1時間のみではなく、題材を通して判断することで、児童一人一人を的確に評価していく。

ウ. 評価に基づく改善のポイント

評価に当たっては、記録に残す評価だけではなく、児童の発言や歌唱を音楽的に価値付ける等、指導と評価の一体化を図りながら、児童の思考力や表現力を高められるように発問等に配慮していく。

(板書計画)

詩と音楽との結び付きに気を付けて、日本語の歌曲を味わいましょう。

「待ちぼうけ」

◎作詞者の工夫など感じたこと

◎作曲者の工夫など感じたこと

## 小学校特別支援学級 自立活動学習指導案

- 1 主題名 「当たり前ってどういうこと? ～仕事を性別から考える～」  
(参考「人権感覚育成プログラム(学校教育編)第2集」)

### 2 主題設定の理由

本学級の児童は、物事に消極的になりやすいが、交流学級など慣れた環境の中では安心して自分の考えが発表できている。

仕事(職業)については、「将来の夢」として1年の時から毎年話題にしてきている。また、仕事の前段階で、1年生の時から家庭での手伝いを継続してきている。手伝いの内容も4年生になり責任のある仕事を任せてもらえるようになってきている。任せてもらう喜びと家族から褒められるうれしさを継続できている。題材を構造化し、心理的な安定とキャリア教育の素地を身に付けることをねらいとして本主題を設定した。

そこで、指導にあたっては、それぞれの職業から男女どちらを連想するかを考え、ワークシートに記入することで自分の中にある固定的な考えに気付かせたい。そして、性別にとらわれることなく思いや願いをもって人々が働いていること、自分も夢を叶えるのに性別は関係ないことを実感させたい。また、愛される特別支援学級を目指し、基礎的環境整備と合理的配慮を意識して行いたい。

### 3 児童の実態

児童	生活全般の実態	本題材に関わる実態
A児	(省略)	(省略)
B児	(省略)	(省略)
C児	(省略)	(省略)

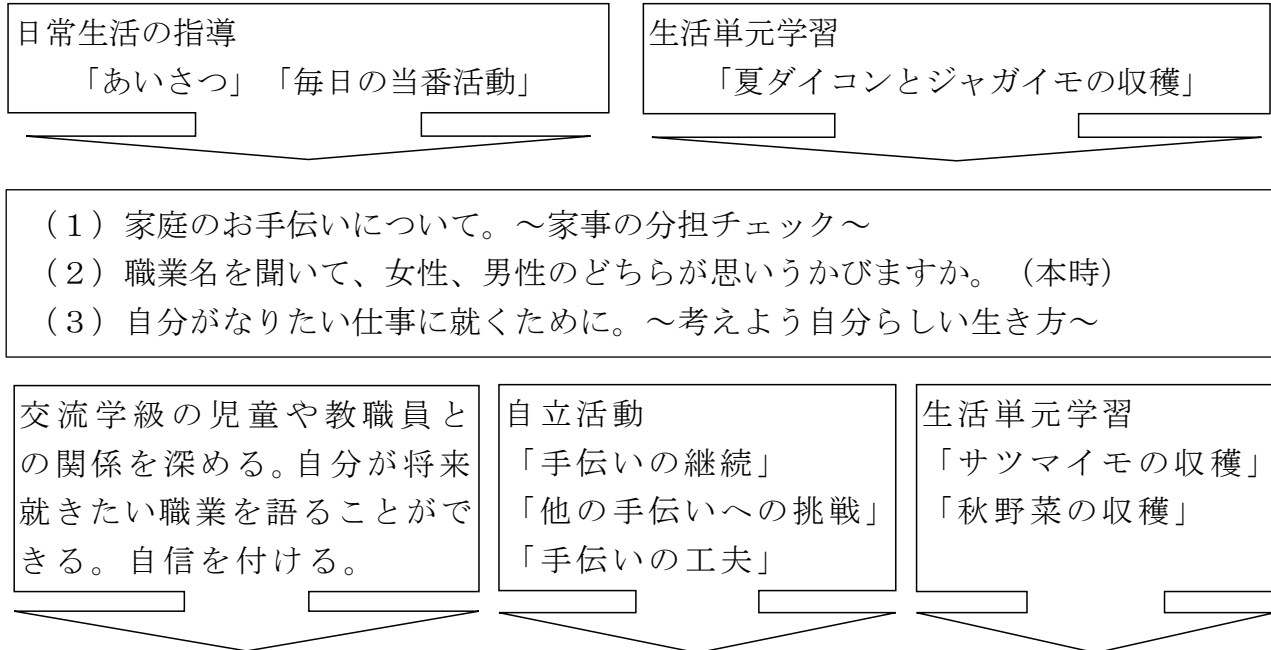
### 4 目標

- (1) 性別による固定的な役割分担の意識があることに気付くことができる。  
(自立活動の内容 2 心理的な安定 3 人間関係の形成)
- (2) 自分の生活の中に「男だから」「女だから」という固定的な考え方があることを知ることができる。(自立活動の内容 2 心理的な安定 3 人間関係の形成)

(3) 「男だから」「女だから」という固定的な考え方にとらわれず、自分の生き方を考えていくことの大切さを知ることができる。

(自立活動の内容 2 心理的な安定 3 人間関係の形成)

#### 指導計画 (3 時間扱い)



#### 6 人権教育上のねらい (普遍的な人権課題「参加・参画」)

「男だから」「女だから」というジェンダーにとらわれず、自分が将来就きたい職業や生き方を考え、社会を担っていく大切さを実感する。性別にとらわれることなく、自分の個性を大切にし、能力を伸ばそうとする意欲をもてるようにする。

#### 7 人権教育上の視点

自分の能力を生かしたり、思いや願いをもったりするなど、主体的に社会へ参加・参画する態度を身に付けている。(価値・態度)

#### 8 本時の構成

(1) 共通目標 自分の生活の中に「男だから」「女だから」という固定的な考え方があることを知ることができる。

(2) 個別目標 A児 自分の中に固定的な考え方があることを知ることができる。

B児 自分の中に「男だから」「女だから」という考え方があることを知ることができる。

C児 自分の中に「男だから」「女だから」という固定的な考え方があることを知ることができる。

## (3) 展開

◎人権教育上の配慮

学習活動	○児童の活動 △予想される児童の反応 □授業者の主な指示 ※支援の手立て *評価の観点		
	A児	B児	C児
1 あいさつをする。	<input type="checkbox"/> 心のスイッチを入れます。 (かかとを合わせます。手は横。目を見て。) <input type="checkbox"/> あいさつをする。(気持ちの転換を図る) <input type="checkbox"/> 号令は日直のB児がする。 ※授業の始まりを意識できるようにする。 *言葉と態度(背筋、足)で切り替えられたか。		
	※かかとを意識させる。 ※視線を合わせる。	※可能な限り、かかとを意識させる。	※足型に合わせる。 ※視線を合わせる。
2 本時のめあてと流れを知る。	<input type="checkbox"/> 今日の学習のめあてと流れを説明します。 <input type="checkbox"/> 見通しをもつ。 ※学習の流れを知らせ、見通しをもたせる。		
	※めあてを短く分かりやすく伝える。	※流れを分かりやすく伝える。	※授業の流れの表を提示する。
3 口の体操をする。	<input type="checkbox"/> トレーニングをします。始めに口の体操です。 <input type="checkbox"/> 「パペポペピプ」 <input type="checkbox"/> 「パタカラ体操」		
4 目の体操をする。	<input type="checkbox"/> 次に目の体操をします。 <input type="checkbox"/> 「ビジョントレーニング1 基本(追従性、跳躍性、両目のチームワーク) <input type="checkbox"/> 「ビジョントレーニング2 線迷路(追従性眼球運動) <input type="checkbox"/> 「ビジョントレーニング3 数字探し(跳躍性眼球運動) ※小集団の中で楽しみながら活動し成功体験を積ませる。 ※よくできていることをその場でほめる。		
	※口型や唇の動きを意識させる。 ※ゆっくり目の体操をする。	※ゆっくりでも最後まで言えるようにする。 ※斜視があるので、ゆっくり目の体操をする。	※口型を確認する。 △競争意識が働く。 ※口と目の体操も早口になったり、あせったりしないように注意を促す。
5 アクティビティーをする。「女性? 男性?」	職業名を聞いて、女性、男性のどちらが思いうかびますか。		
	<input type="checkbox"/> 仕事をする人や仕事(職業)の名を聞いて、思い浮かぶのは、女性ですか、男性ですか。 <input type="checkbox"/> 説明を聞く。 <input type="checkbox"/> ワークシート1に書く。		

	<p>○発表する。  <b>※</b>本時のキーワード（性別は関係ない、自分がやりたい職業を選ぶ）を押さえる。</p>		
	<p><b>※</b>小集団の中で安心して自分の考えが発表できるようにする。  <b>*</b>自分の中に固定的な考え方があることを知ることができたか。</p>	<p><b>※</b>意欲が持続するようになできたことをそのつどほめる。  <b>*</b>自分の中に「男だから」「女だから」という考え方があることを知ることができたか。</p>	<p><b>※</b>1番目に指名する。  <b>※</b>がんばりを認める。  <b>*</b>自分の中に「男だから」「女だから」という固定的な考え方があることを知ることができたか。</p>
6 振り返りをする。	<p><input type="checkbox"/>今日の自立活動で勉強したことをワークシートに書きましょう。  ○今日の学習を振り返る  ○ワークシート2に自己評価を書く。  <b>※</b>それぞれの違いやよさを認め合う場とする。  ◇自己表現（自己評価）  ◇他者理解（相互評価）（他者評価）  <b>※</b>各児童のよくできていた所やがんばった所を評価して成功感をもたせる。</p>		
	<p><b>※</b>2番目に指名し、友達の発表を聞いて自分も発表しようという雰囲気にする。  <b>*</b>自分がやりたい仕事に自信がもてたか。</p>	<p><b>※</b>自分の思いが発表できるようにそばにいて声をかける。  <b>*</b>自分がやりたい仕事に自信がもてたか。</p>	<p><b>※</b>がんばりを認め励まし自分の考えが書けるようにする。  <b>*</b>自分がやりたい仕事に自信がもてたか。</p>
7 学習のまとめをする。	<p><input type="checkbox"/>生活の中に「女性」「男性」と決めつけていることはないかな。  <b>※</b>持ち物の色、言葉遣い、衣類、テレビ番組、本等考えさせる。  ○自由に発表する。  ◎自分の能力を生かしたり、思いや願いをもったりするなど、主体的に社会へ参加・参画する態度を称賛する。（価値・態度）  <input type="checkbox"/>あいさつをします。（かかとを合わせます。手は横。目を見て。）</p>		
8 あいさつをする。	<p>○全員で声をそろえて、あいさつをする。  <b>※</b>背筋の伸びた姿勢で大きな声であいさつをし、授業を終了させる。</p>		

## 中学校第1学年 国語科学習指導案

### 1 単元名・教材名 新しい視点へ「ちよっと立ち止まって」

### 2 生徒の実態と本単元の意図

本学級については、学習に対して前向きに取り組める生徒が多く、課題解決学習に対しても積極的に取り組む雰囲気がある。学ぶ意欲の高い生徒が多い反面、学習習慣が身に付いていないために、継続的な学習を不得意とする者の割合が高い。一例として、週1回行っている漢字テストにおいて満点を取り続ける生徒が多くいる中で、全く得点できない生徒もいる。日々の学習の中からも家庭学習の啓発に努めていきたい。

本校の生徒の特色として、学年の人数は65名の少人数であるとともに、ほとんどが1つの小学校から入学してくる。そのため入学後も小学校での人間関係が継続している。その利点は、生徒同士の理解は深く、互いに優しく接することができる。その反面、決まった人間関係の中でしか付き合うことができず、人間関係を広くしたいという考えを持つ生徒が少ないという課題が見られる。固定化された人間関係の中で義務教育段階の9年間を過ごし、卒業していく生徒が大部分であり、開かれた人間関係を構築するためにも「人権感覚育成プログラム」を積み上げていく必要がある。併せて、教科の学習においても機会をとらえ、広くコミュニケーション能力の育成が図れるように学習させていきたい。

本教材は、図を示しながら論を展開していく説明的文章である。それぞれの図は見方を変えることで2種類のものを見ることができる。生徒にとっては、図からわかる発見は自然なもので、興味をもちやすい内容になっている。その図から日常生活における事例を挙げ、もの見方や考え方を広げることの大切さを説明している。この教材を通して、段落相互のかかわりを読み解き筆者の主張を明らかにしていくこと、文章の内容について交流することを通してもの見方や考え方を広げることについて学ばせていきたい。また、教材の内容的な特質を生かして、多くの側面から人権教育上のねらいに迫っていきたいと思う。例えば、固定観念にとらわれがちで、1度Aと見たものをなかなかBと見ることができないということがあるが、一度立ち止まって考えることで新たな視点を発見し、より豊かな生活につながることに気付かせることもできるだろう。さらに小集団活動などの交流を通して、コミュニケーション能力の育成も視野に学習を深めさせたい。

### 3 単元の目標

- (1) 筆者のもの見方や考え方を確かめながら読み、自分の生活と結び付けて考えようとしている。 (関心・意欲・態度)
- (2) 段落や、図と文章の関係に着目して、具体的説明の内容や筆者の考えを読み取り、要旨をまとめることができる。 (読むこと)
- (3) 序論・本論・結論という説明的文章の書き方や、叙述、展開・具体例などの工夫や表現の効果について自分の考えを持つことができる。 (読むこと)

- (4) 筆者の考えをもとに自分の生活を振り返ることで、ものの見方や考え方を広げることができる。(読むこと)

#### 4 単元の評価規準と学習活動における具体的評価規準

	ア 国語への関心・意欲・態度	エ 読む能力
単元の評価規準	<ul style="list-style-type: none"> <li>筆者のものの見方や考え方を確かめながら読み、自分の生活と結び付けて考えようとしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>段落や、図と文章の関係に着目して、具体的説明の内容や筆者の考えを読み取り、要旨をまとめている。</li> <li>序論・本論・結論という説明的文章の書き方や、叙述、展開・具体例などの工夫や表現の効果について自分の考えを持っている。</li> <li>筆者の考えをもとに自分の生活を振り返ることで、ものの見方や考え方を広げている。</li> </ul>
学習活動における具体的評価規準	<ul style="list-style-type: none"> <li>①文章の大まかな内容を読み取り、自分の生活と結び付けながら感想を書こうとしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①各段落に書かれている内容を根拠に本文を3つに分け、結論に書かれた筆者の主張をまとめている。</li> <li>②結論に書かれて筆者の主張に着目し、段落相互の関わりを考えながら根拠を明らかにして本論を2つに分けている。</li> <li>③文章中の事柄と共通する経験や、筆者の考えることを通して、ものの見方や考え方を広げている。</li> </ul>

#### 5 指導と評価の計画 (全4時間)

時	主な学習活動	学習内容	評価規準・評価方法
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>○文章の大まかな内容を読み取り、自分の生活と結び付けながら感想を書く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○概要の読み取り方</li> </ul>	アの① <ul style="list-style-type: none"> <li>・机間指導による観察</li> <li>・ワークシート</li> </ul>
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>○本文を序論・本論・結論に分け、それぞれの要点をまとめる。</li> <li>○それぞれの中心となる文を見付け、筆者の主張をまとめる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○段落構成</li> <li>○事実と意見の読み分け方</li> <li>○筆者の主張のとらえ方</li> </ul>	エの① <ul style="list-style-type: none"> <li>・机間指導による観察</li> <li>・ワークシート</li> </ul>

3	○根拠を明らかにして本論を2つに分ける。	○段落相互の関係 ○主張と根拠の関係	エの② ・机間指導による観察 ・ワークシート
4 本時	○本文を通して、自分のものの見方や考え方を見直し、それを今後の生活にどう生かすかまとめる。	○自分の考えと具体例の示し方 ○考えの交流	エの③ ・机間指導による観察 ・ワークシート

## 6 人権教育上のねらい（普遍的な人権課題「多様性の尊重・共生」）

ステレオタイプ（決め付けた見方）にとらわれないよう自分の感情や考えを冷静に振り返り、物事を柔軟かつ多角的に見ようとする態度を養う。

## 7 人権教育上の視点

- (1) 社会の中にある固定的な思い込みや先入観に気付き、多様な考え方を大切にしようとする。（価値・態度）
- (2) 日常生活で見過ごしていたり、当たり前を感じていたりし間違いがちなことを改めて見直すことができる。（技能）

## 8 本時の学習指導（第4 / 4時）

### (1) 目標

- ・本文に書かれている筆者の考えをもとに自分の生活を振り返ることで、ものの見方や考え方を広げるとともに、今後の生活に生かそうとすることができる。

### (2) 展開

◎人権教育上の配慮

学習活動	学習内容	指導上の留意点
1 前時に行ったことを振り返る。		・前回までにまとめたものを掲示する。 ・生徒のまとめた図を黒板に掲示する。
2 本時の学習課題をつかむ。		・学習の見通しをもたせる。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px auto; width: fit-content;">           [学習課題] 「ちょっと立ち止まって」を読んで、今後の生活に生かせそうなことは何か考えよう。         </div>		
3 筆者の主張を読み取り、自分の考えをまとめる。（個人）	○筆者の主張のとらえ方 ○自分の考えとその根拠となる具体例の示し方	・自分の生活の中でどう生かすか具体例を用いて書かせる。 ・日常生活の中で見方を変えることで問題解決したり、新たな発見をしたりした経験を思い出させる。



<p>4 自分の考えを4人班で交流する。 (グループ)</p> <p>5 交流を基に自分の考えをもう一度まとめる。 (個人)</p> <p>6 まとめをする。</p> <p>7 本時の学習を振り返る。</p>	<p>○考えの交流</p> <p>○自分の考えとその根拠となる具体例の示し方</p>	<p>◎日常生活で見過ごしていることに気付かせるために、筆者の主張を参考にして考えるよう助言する。(技能)</p> <p>◎多様な考えを尊重させるために、誰とでも分け隔てなく課題を考えたり教え合ったりしている生徒を称賛する。 (価値・態度)</p> <div data-bbox="970 600 1426 853" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><b>評価場面</b></p> <p>〈具体の評価規準〉エの③</p> <p>〈評価方法〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・話し合いの様子等の観察</li> <li>・ワークシート</li> </ul> </div> <p>・自己評価カードに記入させる。</p>
--	--	---

## 中学校第3学年 英語科学習指導案

### 1 単元名 Program 5 Sushi-Go-Around in the World (Sunshine English Course 3)

### 2 単元について

本単元は、日本食ブームが世界中で進む中、その先駆けとなった回転ずしの歴史と世界での人気の秘密に焦点を当て、食を通した日本文化についての理解を深める内容である。学習指導要領の「内容の取扱い」に、「我が国の文化や、英語の背景にある文化に対する関心を高め、理解を深めようとする態度を養うのに役立つこと」と示されている点を踏まえ、様々な食文化を中心とした話題に触れながら、その文化的な背景について知る機会としたい。また、この単元では学習指導要領「話すこと（発表）」の「(ウ) 社会的な話題に関して聞いたり読んだりしたことから把握した内容に基づき、自分で作成したメモなどを活用しながら口頭で要約したり、自分の考えや気持ちなどを話したりする」ことについて指導する。第5文型と間接疑問文を用いて、日本の「食」や「物」について、聞き手に配慮しながら伝える力を養いたい。

### 3 生徒の実態について

埼玉県学力・学習状況調査における本学年の英語の学力推移をみると、平成31年度（令和元年度）から令和2年度にかけて学力の伸びは2、伸ばした生徒の割合は県を0.4ポイント上回り79.7であった。これまでの指導の成果が数値となって表れている。これまでの話すことの指導を通して見えている本校の傾向は、与えられた言語材料を用いて正しく話すことは得意であるが、真に自分が伝えたいことを話そうとすると途端に言い方がわからなくなる生徒が多くいることである。第5文型、間接疑問文についてもワークなどの問題は解くことができるが、話す場面で用いることは難しいと感じている生徒が多い。

本単元は身近な存在である回転ずしについて扱っており、生徒の共感を引き出しながら対話活動やグループ課題に取り組みせ、学び合いを通して全員が課題に取り組めるように工夫する。自己表現活動はややハードルが高いので、リテリング活動を取り入れスモールステップを踏むことで、自己表現活動への苦手意識を払拭していきたい。

### 4 単元の目標

回転ずしの歴史と世界的な人気、和食が世界で人気となった理由を知り、食を通した日本文化をALTに理解してもらえるように伝えることができる。

- ・第5文型（call, name, make の文）の特徴やきまりを理解し、食を通した日本文化について考えたことや感じたことなどを、第5文型を用いて聞き手に伝える技能を身に付けている。（知識及び技能）

- ・ 間接疑問文の特徴やきまりを理解し、食を通した日本文化について考えたことや感じたことなどを、間接疑問文を用いて聞き手に伝える技能を身に付けている。

(知識及び技能)

- ・ A L Tに理解してもらえるように、食を通した日本文化について読み取ったことを英文を引用するなどして作成したメモを用いながらA L Tに伝えている。

(思考力・判断力・表現力)

- ・ A L Tに理解してもらえるように、食を通した日本文化について読み取ったことを英文を引用するなどして作成したメモを用いながらA L Tに伝えようとしている。

(学びに向かう力、人間性等)

## 5 単元の評価規準

(本単元における「話すこと [発表]」以外の領域については、目標に向けての指導は行うが、本単元内で記録に残す評価は行わない。)

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
話すこと [発表]	<p>&lt;知識&gt;</p> <p>①第5文型、間接疑問文の特徴やきまりを理解している。</p> <p>&lt;技能&gt;</p> <p>②食を通した日本文化について、考えたことや感じたことなどを、第5文型、間接疑問文などを用いて伝える技能を身に付けている。</p>	<p>A L Tに理解してもらえるように、食を通した日本文化について読み取ったことを英文を引用するなどして作成したメモを用いながらA L Tに伝えている。</p>	<p>A L Tに理解してもらえるように、食を通した日本文化について読み取ったことを英文を引用するなどして作成したメモを用いながらA L Tに伝えようとしている。</p>

## 6 指導計画 (7時間)

- 第1時 新出文型〈call+〜(人など)+…(名前)〉の理解と表現活動
- 第2時 セクション1の本文理解と音読、リテリング 【本時】
- 第3時 新出文型〈make+〜(人など)+…(形容詞)〉の理解と表現活動
- 第4時 セクション2の本文理解と音読、リテリング
- 第5時 新出文型〈主語+動詞+目的語(疑問詞+主語+動詞)〉の理解と表現活動
- 第6時 セクション3の本文の理解と音読、リテリング
- 第7時 プログラムのまとめ活動

7 人権教育上のねらい（普遍的な人権課題「コミュニケーション能力」）

他者の気持ちや考えを正確にとらえようとし、様々な方法を活用して率直かつ誠実に他者に伝えることができるようになる。

8 人権教育上の視点

- (1) 仲間と共に学び合うためには、相手の立場を尊重しつつ、自分の考えや意思を表現することが大切であると気付く。（価値・態度）
- (2) 相手の対場を考えて互いに分かり合えるよう、適切なコミュニケーションの手立てを考えることができる。（技能）

9 本時の展開

目標 留学生パットと大介の対話から、オーストラリアと日本の回転寿司屋の様子について知り、本文を参考にしながら自分の言葉も加えて内容をリテリングすることができる。

展開（2 / 7）

◎人権教育上の配慮

過程 (時間)	○学習活動・学習内容	・指導上の留意点 □評価<方法>
導 入 (5)	○挨拶をする ○Small Talk (Birthday Present) ・テーマについて1分間ペアで対話する。ペアを変え1分間対話する。	・全体で挨拶をする。 ・授業の流れをあらかじめ黒板に提示しておく。 ・ペアを変えるタイミングで、言いたかったのに言えなかった表現、共通してみられる誤りを学級全体で共有、言語面の指導をする。 ◎2人で協力して会話がつながるよう相手の状況を考えて表現している生徒を称賛する。 （価値・態度）
展 開 (37)	○ALTとJTEの和食についての対話を聞く ・内容確認の口頭発問をする。 ○本時の目標を把握する <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">                         日本とオーストラリアの回転寿司についてALTに説明できるようにしよう                     </div>	・理解の助けとなるようにモニターにスライドを映して分かりやすい紹介をする。 ・ALTと和食についてのやり取りをし、題材と生徒を近づけ、レディネスを高める。

	<p>○新出単語を確認する</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・フラッシュカードを用いて発音練習をする。</li> </ul> <p>○音読練習</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・対訳プリントを活用しながらバリエーションをもたせた音読練習をする。</li> </ul> <p>○グループワーク</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・4人組で音読練習をする。</li> </ul> <p>○発表</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・グループごとに発表する。</li> </ul> <p>○フィードバック</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教師とALTの対話よりアメリカの和食・寿司事情を聞き取る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新出単語に関連する語も生徒から引き出す。</li> <li>・正しい発音を身につけさせる。</li> <li>・対訳プリントを用いて、意味とリンクさせながら、様々な形の音読活動を行わせることで、回数多く練習できるようにする。</li> <li>・リテリングのアイデアの共有と練習をさせる。</li> </ul> <p>◎グループワークの際、相手を意識した適切なコミュニケーションが図れるよう、個人で考える時間を確保する。(技能)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・練習の中で範となるグループの取組を学級で共有、よりよい発表となるようにさせる。</li> <li>・発表ごとに良い表現や良いパフォーマンスなどをALTにフィードバックしてもらう。</li> </ul> <p>□協力して本文を参考に作成したメモを用いながら、グループとして完成させたリテリングをしている。【思考・判断・表現】      &lt;観察・プリント&gt;</p> <p>□正しくリテリングをしている。【技能】      &lt;観察&gt;</p>
<p>まとめ (8)</p>	<p>○振り返り</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・評価カードの記入</li> <li>・振り返りの発表</li> </ul> <p>○挨拶をする</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本課最初のリテリングを行い、言いたかったが言えなかった表現、新たな疑問、次回に向けての目標を記入させる。</li> <li>・振り返りをシェアすることで互いに学び合ったり高め合ったりしていこうとする生徒同士の関係を育む。</li> <li>・全体で挨拶をする。</li> </ul>

## 高等学校工業科（デザイン） 学習指導案

### 1 単元名 「ユニバーサルデザイン」

### 2 単元について（学習内容の概要）

デザイン理念の一つであるユニバーサルデザインについて、内容の理解を深め、その意義を学習する。

### 3 単元の目標及び評価規準

#### (1) 単元の目標

ユニバーサルデザインの意義を理解し、バリアフリーや一般のデザインとの違いや共通点を知り、今後のデザイン活動に生かす知識を身に付ける。

#### (2) 単元の評価規準

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
・既存のユニバーサルデザインに対して、意義を理解し関心を寄せることができる。	・自分とは違う状況に対して想像を深め、伝えることができる。	・考えたことを、アイデアとしてまとめた形にしてプレゼンテーションできる。	・ユニバーサルデザインの意義を理解することができる。

### 4 人権教育上のねらい（普遍的な人権課題「多様性の尊重・共生」）

デザインに触れる人の様々な価値観や行動様式等を理解するとともに、ユニバーサルデザインの視点に立ってデザインをすることで、物事を柔軟かつ多角的に見ようとすることができるようになる。

### 5 人権教育上の視点

- (1) 様々なユニバーサルデザイン製品から、それらの役割、ターゲットを読み取り、多様な考え方を尊重しようとする。(価値・態度)
- (2) 他者の立場に立ってアイデアを導き出すことで、多様性を尊重する社会を形成するための必要なことを考えることができる。(技能)

### 6 生徒観（学習状況の実態）

全体的に真面目な性格だが、粘り強く考えたり想像を深めたりすることは苦手な生徒が多い。明確な解答が無い場合、安易な結論で満足してしまう傾向がある。

## 7 授業のデザイン

課 題	
車椅子がユニバーサルデザインになるための、アイデアを考えてください	
○このエキスパートでお さえてほしいポイント	○このエキスパートでお さえてほしいポイント
「目が見えない」だけで なく「腕時計を見て確認す ることができない」という タイミングは誰にでもあ る。	耳が不自由な人は健常 者とコミュニケーション を取る上で、「聞こえない」 という障害があるが、健常 者にとってそれは「伝えら れない」という障害でもあ る。
⇒具体的に使いそうな資 料や活動	⇒具体的に使いそうな資 料や活動
既製品「さわる時計」のHP	既製品「Ontenna」のHP
○このエキスパートでお さえてほしいポイント	○このエキスパートでお さえてほしいポイント
ある行動に関して誰も が困難を抱える状況があ り、それを解決する具体例 を学ぶ。	
⇒具体的に使いそうな資 料や活動	⇒具体的に使いそうな資 料や活動
既製品「OriHime」のHP	
期待す る解答 の要素	<ul style="list-style-type: none"> <li>●車椅子の役割の一つは「移動」である。すべての人に対して移動の障害をなくすと考えると、「動く歩道」や「エスカレータ」のような形になるのではないか。</li> <li>●誰にでも「移動」できない、したく無いというタイミングがある。Zoomなどのリモートで用事が済ませられれば良いのではないか。</li> </ul> <p>※車椅子が果たす機能である「移動」について、そこに生まれる障害を解決するというアイデア。このような解答が期待される。</p>

## 8 指導計画

時	指 導 内 容 等
1	身の回りの問題に関する現状を認識させるため、グループごとに既存のユニバーサルデザインの製品から特長や意義を読み解く。Google Chrome を利用し、製品HPを参照しながら行う。
2	相互尊重のコミュニケーションスタイルを学ばせるため、ジグソー活動を行い、前時に調べた製品の特長を参考にしながら、メイン課題をグループごとに考える。その後グループで発表（クロストーク）する。

9 展開

◎人権教育上の配慮

時間	学習活動	支援等
1 日目		
1 5 分	<ul style="list-style-type: none"> <li>メイン課題提示</li> <li>ユニバーサルデザインについて1学期に行った学習を振り返る。</li> <li>メイン課題プレ解答</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「すべての人を対象にしたデザイン」という内容を確認する。</li> </ul>
3 0 分	<ul style="list-style-type: none"> <li>エキスパート活動</li> </ul> <p>Google Chrome を利用して、製品HPを確認しながら、スプレッドシートの穴埋めを行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>グループごとにチャット機能などを活用して、スプレッドシートを作成する。完成したものを印刷し、ジグソー時に使用する。</li> </ul>
5 分	<ul style="list-style-type: none"> <li>片付け</li> </ul>	◎多様性を尊重することの大切さに気付くことができるように、HPから製品の特長やターゲットに注目するよう助言する。(価値・態度)
2 日目		
5 分	<ul style="list-style-type: none"> <li>前日の振り返り、グループ分け</li> </ul>	
2 0 分	<ul style="list-style-type: none"> <li>ジグソー活動</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>エキスパートで作成した資料を元に情報交換を促す。アイデアの根拠、理由を説明できるように考えさせる。</li> </ul>
2 0 分	<ul style="list-style-type: none"> <li>クロストーク</li> </ul>	◎多様性を尊重する社会の形成のために必要なことを考えることができるように、他者の立場や社会全体など、様々な角度から考えるよう助言する。
5 分	<ul style="list-style-type: none"> <li>メイン課題ポスト解答</li> </ul>	(技能)

10 備考

グループの人数や組み方
<p>エキスパート活動 (スプレッドシートのチャット機能を使用)</p> <p>6人 3グループ</p> <p>7人 3グループ</p> <p>ジグソー活動</p> <p>3人 13グループ</p>



今回の「問い」

**「車いすがユニバーサルデザインになるための、アイデアを考えてください。」**

①「問い」に対する授業のはじめの答え

②インターネットを使って、ユニバーサルデザインの製品を調べる。

③グループで、「問い」の答えを考える。

⇒発表内容を記入

④他のグループの発表を聞いて、よいと思った意見

⑤「問い」に対する授業の終わりのあなたの答え

⑥「危険や不便といった障害を取り除く問題解決のための活動がデザインである。」

この考えを活かして、あなたがデザインしたいもの

製品名	さわる時計「Bradley」 (Eone Japan)
作ったデザイナー	キム・ヒョンス
これは何か？	
これはなぜ つくられたか？	
どんな工夫が されているか？	
この製品は、どのよ うな障害を解決する ことができるか？	
この製品は、どのよ うなメリットがある か？	

製品名	音知覚装置「Ontenna」 (富士通株式会社)
作ったデザイナー	千崎 雄大      本田 達也      高見 逸平
これは何か？	
これはなぜ つくられたか？	
どんな工夫が されているか？	
この製品は、どのよ うな障害を解決する ことができるか？	
この製品は、どのよ うなメリットがある か？	

製品名	分身ロボット「OriHime」 (株式会社オリィ研究所)
作ったデザイナー	吉藤 健太郎
これは何か？	
これはなぜ つくられたか？	
どんな工夫が されているか？	
この製品は、どのよ うな障害を解決する ことができるか？	
この製品は、どのよ うなメリットがある か？	

## 人権教育学習指導案集

～令和2年度の実践～

発行年月 令和3年3月

発行 埼玉県教育局市町村支援部人権教育課  
さいたま市浦和区高砂3-15-1

連絡先 TEL 048-830-6892

ホームページ <http://www.pref.saitama.lg.jp/soshiki/f2218/>



埼玉県のマスコット コバトン&さいたまっち

👤 2021年は埼玉誕生150周年 👤